

第93号 長野地区会ニュース

令和5年 3月28日

発行 国臨協長野地区会

発行責任者 平原 博美

編集責任者 中戸川 浩平



contents

- 2023年度 地区会員異動者挨拶

平原 学

中根 丈裕

佐久間 悠輔

- 第二の退職「勇退に至り」

齊間 理

- 贈る言葉～沼田技師長に感謝を込めて～

- 編集後記

「2023年度 地区会員異動者挨拶」
信州上田医療センター 平原 学



この度、4月1日付けで沼田病院に異動になりました、信州上田医療センターの平原です。

平成30年4月に現施設に来て5年経ちました。その間、一番の出来事といえば新型コロナウイルス感染症でしょう。長野に来たら温泉を堪能しようと楽しみにしていましたが、行動制限でどこにも行けず、千葉の我が家にも帰れずという状態が長く続き、充実した私生活とは程遠いものでした。

しかし、感染症発生当初からPCR・抗原検査に従事したことで、出た結果をそのまま報告するのではなく、結果に患者背景を考慮した上で、そこに少しでも疑問があればどんなことでも医師や多職種と相談したことで、解らないことだらけだったこの新しい感染症に対する種々の問題を解決してきました。そうして地域の感染拡大を抑える診療のほんの些細な一助となれるように頑張ってきたことが、私の中の検査技師の意識を今一度見つめ直す良い切っ掛けとなりました。終いには自らも感染・発症し、この感染症がこんなにも辛い事、独り身で病気になると本気で洒落にならないことを身に染みてわかりました。

4月より群馬県の沼田病院で副技師長としての生活が始まります。主任とはまた違った業務に不安でいっぱいですが、長野県で皆様に支えられながら経験してきたことを元に頑張っていきたいと思います。

最後に、長野地区会の益々のご発展と会員皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

「2023年度 地区会員異動者挨拶」
まつもと医療センター 中根 丈裕



長野地区会会員の皆様、この度、4月1日付でまつもと医療センターから東京病院へ配置換えとなりました中根です。

まつもと医療センターおよび長野地区会の皆様方には4年間お世話になりました。

私は茅野市出身で高校卒業後東京に上京し、その後検査技師となり国立病院機構に就職してから各地を転々としてきました。2019年4月にまつもと医療センターに配置換えとなり、18年ぶりに長野に戻って地元の空気を吸った時は感慨深いものでありました。

2019年6月に行われた長野地区会定期総会・学術研修会及び意見交換会では皆様との交流することができ良い思い出になりました。しかし、2020年の年明け早々に新型コロナウイルス感染症の大流行により、地区会の理事を務めさせていただいたその年は研修会やレクレーション等を企画することが叶わず、それ以降も対面して皆様とお会いすることが出来ず残念でなりません。

まつもと医療センターでは、未知のウイルスに対して新たな検査体制の構築などを行い、貴重な経験となりました。この4年間で培った経験を基にさらに精進し、新たな地で貢献できるよう努めていきたいと思っております。

最後に、まつもと医療センター検査科スタッフに感謝するとともに長野地区会会員の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。4年間ありがとうございました。

「2023年度 地区会員異動者挨拶」

信州上田医療センター 佐久間 悠輔



この度、4月1日付で信州上田医療センターから災害医療センターへ異動となりました。

私は神奈川県出身ですが、10年前に前任施設の国立精神・神経医療研究センター病院から信州上田医療センターに配置換えとなり、上田市に引っ越してきました。

赴任して早々に10年に1度の大雪に見舞われ、当時は雪への備えをしておらず、雪かき用スコップの確保に奔走したことがつい先日のように感じます。

また、長野地区会の研修会や総会是他施設の会員の方々と意見交換ができる貴重な機会となりました。しかし、近年は新型コロナウイルス感染症のため、地区会活動もWeb上のみとなるなど、交流の機会があまりもてませんでした。ようやく状況が落ち着き始め、これからという時に長野の地を去ることになってしまいましたが、また皆様と交流できる日を楽しみにしております。

信州上田医療センターでは、医療法改正や病院機能評価に備えた検査手順、運用方法の見直し等に携われたことはかけがえのない経験になりました。

最後に、長野地区会会員の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

長野地区会の皆様。

定年後に小諸高原病院で再任用3年、賃金職員2年の合計5年間お世話になりました。この5年間の出来事では、思わぬCOVID19感染が世界中で猛威を振るいました。国内でも感染対策にて移動規制等が始まり、以前には余り普及していなかったリモートでのオンライン会議や学会が整備され、新たな社会現象を垣間見る事が出来ました。半面、直接会ってお話出来るチャンスが無くなりとても残念でした。政府からの発表では今年5月に2類から5類へと変更する予定となり、ようやく落ち着く見通しとなりましたが、唯一良い発展したリモート機能は時間節約やコスト削減に使える手段と思いますので、今後も適時・的確に使われたら良と思います。臨床検査技師としてはPCR検査で世に名を轟かせたのかなと多少なりと誇らしい部分もありました。

小諸高原病院での思い出としては、当時の林専門職と齊藤技師長には再任用制度雇用でお世話になり無事に今に至りました。両氏共に定年後それぞれの住居地域にて再任用で頑張っておられると風の便りで聞いております。一足早く失礼しますが、ありがとうございました。またお会いした時は一杯飲みましょう。

現在は神経センターへ異動した浅野主任とは仕事では精度管理のデータ集積&解析方法等を教えたり、休み時間には趣味が似ている事もありバイクや車の談義が楽しかったです。僕の車で富士スピードウェイに行った事もありました。また、バイクでツーリング行きましょう。

現技師長の沼田技師長はコロナ禍真っ盛りでの赴任で地区会もそうですが歓迎会すら出来ず3年間で過ぎてしまいました。今回に退官となりますが再任用はせずに家庭に入ると聞きましたが、細胞診・病理認定取得されているのでお声が掛かった節には是非に後輩の指導をお願いしたいと思います。

三井さんは7歳・5歳の子育て中真っ盛りのお母さん技師さんです。仕事も私事も大変な時期と思いますが、持ち前のガッツで頑張ってください。

臨床検査技師としての将来像を考えた場合、診療部への参画が必須でタスク・シフト/シェアも進んで行くと思います。AIの普及も発達するでしょうし、本当に求められる臨床検査技師を目指し進んで行って欲しいと思います。

最後に平原会長、岡村技師長、内川技師長、梅戸副技師長、一緒に働いた頼もしい後輩たち。また、ほかの初めましての後輩たち。後はお任せします。ありがとうございました。



贈る言葉

～沼田技師長に感謝を込めて～

すでに前回の、第92号長野地区会ニュースで
「国立病院機構臨床検査技師協会関信支部表彰を受賞し
て」と題してご挨拶をいただいている沼田技師長には、

- ・ 精神・神経医療センターの浅野さん
- ・ 小諸高原病院の三井さん

のお二人からメッセージをいただいています。



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 浅野 太貴

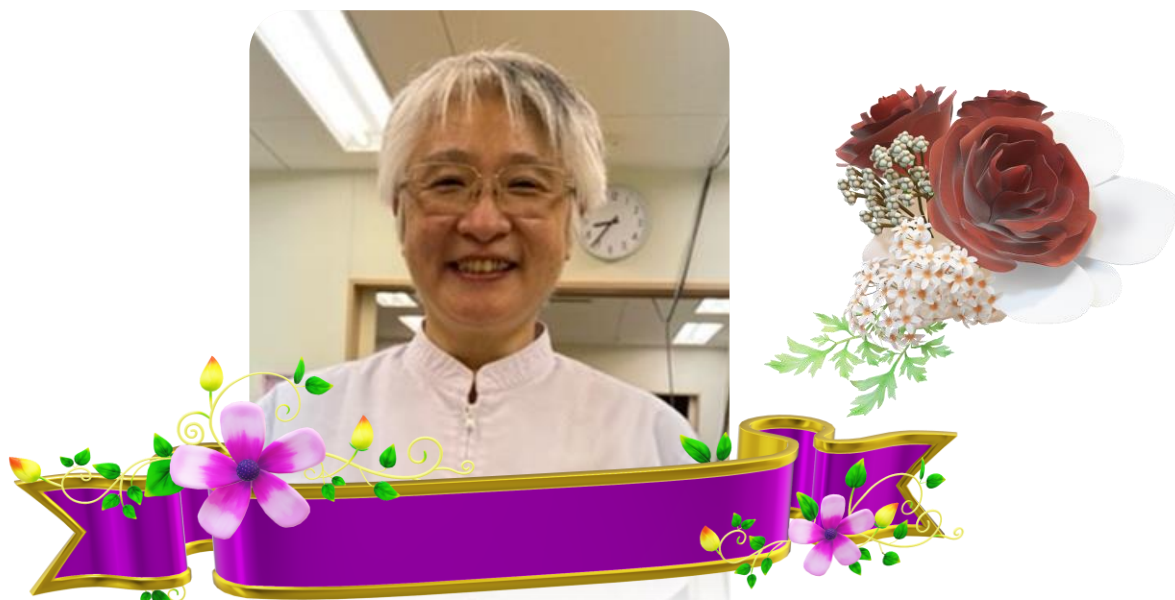
沼田技師長、この度はご定年おめでとうございます。沼田技師長には小諸高原病院で2年間、そして15年程前に国立国際医療センターで半年の間、病理検査のご指導を賜りました。

私が小諸高原病院在任中に沼田技師長が赴任された時は今から3年ほど前の事であり、当時は新型コロナウイルスが流行し始めたばかりで前任の斎藤技師長から意志を引き継ぎ、一緒に「遺伝子検査室」を作る事から始めました。遺伝子検査関連の機器選定、遺伝子検査の手順の作成を行い、小諸高原病院で遺伝子検査をスタートできた事は新型コロナで苦境に立たされつつあった病院にとって、大きな貢献へと繋がりました。生理検査では長年使用してきた脳波検査機器と超音波検査機器から新しい装置へ、生化学検査では斎間さんと共に新しい生化学分析装置への切り替えを行いました。少人数で検査室を運営する事はとても大変でしたが、短い期間内に多く沢山の思い出が残る事となりました。そして15年前、私は病理の経験が全くない状態で病理検査室に配置され、沼田技師長には検体処理、薄切、染色などに加えて剖検時、誰よりも上手に、とても丁寧に教わった事、並びに私が先に転勤となった際、温かく送り出して頂いた事は自分にとって大切な思い出となりました。今でもつい最近の出来事のように思い出されます。沼田技師長のように常に誰の事でも思いやり、正しく指導できる指導力をいつか自分も身に付けられるよう、これから努力して参ります。最後になりますが、定年まで長年のお仕事を無事勤めあげられましたこと、心よりお祝い申し上げます。これまで指導いただき、ありがとうございました。沼田技師長の今後益々のご健勝、ご多幸を心よりお祈りいたします。

ご定年退職誠におめでとうございます。私が小諸高原病院に異動になり赴任した当初に、沼田技師長はこの一年でお仕事終わりと伺っていました。三月に入り、春を告げる蕾のほころびをうれしく思うと同時に寂しさが募ります。

私が沼田技師長とご一緒してとても心に残っていることは、育児しながら働く女性を尊重してくださることでした。私は私の中で子供が生まれてから自分のために休息をとることは罪だと思っていました。誰に言われたわけでもありませんでしたが、毎日があまりにも目まぐるしく、子供のためか、もしくはブランク分の自分のスキル向上のために使うべきと思っていました。そのため、いつもピリピリしていたように思います。ある時、話の中で、休んで自分の時間を持つことは大事。心にゆとりを持つことで仕事の向上にも家族の円満にも繋がるのよと言われたとき目からうろこでした。働いている母も休んでいいのだと心に響きました。沼田技師長の時代はまだまだ育児をしながら女性が働くには大変な時代だったかと思います。それにも関わらず沼田技師長がくれる言葉はいつも私を肯定させてくれました。

小諸高原病院で沼田技師長に出会えたことは私の宝物です。私がある程度一人でも仕事ができるようになったのは沼田技師長の細やかなご指導のおかげです。ありがとうございました。定年後はご家族と素敵な第二の人生を楽しんでください。長野に比べ東京は暖かいかと思いますが、お身体には十分に気を付けてくださいね。



沼田技師長ご退職おめでとうございます！！

編集後記

3月も下旬になり日ごとに温かさを感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は車のフロントガラスが毎朝凍らないことに春を感じております。このたび異動や退職される方の挨拶等を掲載させていただきました。お忙しい時期にもかかわらず原稿の執筆をしていただきありがとうございました。